



かなたから
鶴が降り立つ
屯鶴峯

〔か〕 屯鶴峯は、香芝市との間にある、凝灰岩の白い奇岩群のことです。千数百万年前に二上山の火山活動によって火砕流や火山灰が堆積し、のちの地殻変動や風水による浸食によって現在の姿になりました。古くは古墳の石棺などの石材として利用されました。凝灰岩の白い岩肌と濃い緑の対比が、遠くから眺めると鶴が屯しているように見えたことから、この名前と呼ばれるようになりました。



救世主
山田に伝わる
弥十郎

〔き〕 伊達弥十郎は、江戸時代初期に伊達藩で起こったお家騒動である、伊達騒動の難を逃れて山田に住み着いたと言われている伊達家の主人です。自分の田を村に寄贈し、その収穫米で飢饉による多くの生活困窮者を救うなど、地域のために尽力しました。現在では、寄進を受けた土地の一つを利用して山田集会所が建てられており、集会所前や正泉寺前にも伊達弥十郎を顕彰する記念碑が建てられています。



楠が
抜きんでている
鎌田邸

〔く〕 鎌田邸の楠は、大阪府の天然記念物にも指定された、樹齢250年を超える巨木です。樹高は25メートル以上で、竹内街道を歩いていくと家並みの中にそびえ立つその姿が目に入ります。鎌田家は、春日村の庄屋を代々つとめた家で、付近はかつての風情を残しており、この楠は地域のランドマークとして、変わらない日常を見守っています。



傾斜地の
太子のめぐみ
甘いみかん

〔け〕 二上山のふもとにある太子町では、その地形を利用して、みかんが盛んにつくられています。中でも、上の太子観光みかん園は関西最大級の広さを誇り、南向きの斜面には約1万本のみかんの木が植えられており、周囲を一望できます。太陽の光を十分に浴びたみかんは甘さがギュッと詰まり絶品です。



五右衛門も
ここに腰掛け
ひとやすみ

〔こ〕 石川五右衛門は桃山時代の大盗賊で、豊臣秀吉の配下によって捕らえられ、釜茹での刑に処された人物です。五右衛門の出生地については諸説あり、河内国もその一つと言われています。そんな五右衛門の逸話が太子町にもあります。盗みに失敗し、逃げ帰った五右衛門がホッとして石に腰掛け、悔し紛れに石を殴りつけ、煙草のキセルを打ち付けました。その跡が残ったと言われるのが葉室の五右衛門石です。